

第51回理事会の開催

昨年11月27日、第51回理事会が開催されました。

1. 評議員の委嘱について

当機構の評議員は、昨年11月20日で任期満了となりましたので、改めて35名の方に委嘱しました。任期は2年間です。

2. 研究審議会委員の委嘱について

当機構の研究審議会委員は、昨年11月30日で任期満了となりましたので、改めて10名の方に委嘱しました。今回は新たに5名の方々に参加頂くこととなりました。任期は2年間です。



あいさつする鈴木理事長

今回新たに研究審議会委員になられた方々

石田東生 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授

大石久和 (財)国土技術研究センター理事長

黒川 弘 (財)自転車駐車場整備セン

ター理事長

白石真澄 東洋大学経済学部教授

渡邊浩之 トヨタ自動車(株)技監

3. 報告

平成18年度事業の実施状況及び第13回ITS世界会議(ロンドン)について報告されました。

平成19年度国土交通省道路関係予算(政府案)におけるITS関連予算

1. 道路関係予算全体概要

本格的なモータリゼーションに対応した道路整備が始まって半世紀、厳しい経済情勢の中、これまでのストックの有効活用の徹底や急速なストックの高齢化に対応しつつ、道路の果たす役割を最大限発揮するよう、「集中的にスピード感をもった道路行政への転換」、「沿道地域との一体整備など他分野との積極的な連携」、「住民や地域の方々との協働」という3つの観点を基本に、道路行政の原点に立ち戻った改革を推進することとしています。

その際、重点的に取り組む分野として、

- I 国際競争力の強化
- II 地域の自立
- III 安全・安心の確保
- IV 豊かな生活環境の創造

V 既存ストックの長寿命化

VI 高速ネットワークの効率的活用・機能強化

VII 道路施策の進め方

について、積極的に取り組むこととされています。

2. ITSの推進

ITSの推進については、地域の自立と競争力強化のための既存ストックの有効活用の一環として、事業費640億円が計上されています。

ETCやVICISの普及により着実に進展しているITSは、渋滞、交通事故、環境悪化等社会的課題の解決に貢献するセカンドステージに入っており、平成19年度は、ITSの基盤となる情報収集及び情報提供施設等の整備を進めるとともに、一つのITS車載器で多様な

サービスを利用できる車内環境を実現するためのシステムの具体化を図ることとしています。

(1) 安全走行支援の推進

安全安心の一層の向上のため、IT新改革戦略等を踏まえ、音声や静止画像の活用により安全走行を支援するAHS(Advanced Cruis-Assist Highway System: 走行支援道路システム)を推進することとしています。

(2) ITSサービスの高度化

円滑な交通を確保し環境の改善を図るため、プローブ情報(車両を通じて収集される位置・時刻・路面状況等のデータ)の活用の検討等を行い、道路交通情報提供の充実を図るとともに、ITを活用した物流効率化の支援を行うこととしています。また、地図情報との連携や走りやすさに関する情報を活用したカーナビの高度化

「道路ふれあい月間」 標語募集要領

募集要領

テーマ	道路は国民共有の、つまりあなたの財産です。 〈みんなが道路と親しみ、ふれあい、常に広く、美しく、安全に、共に楽しく利用しましょう。〉 道路は、生活の向上と経済の発展に欠くことのできない国民共有の、つまりあなたの財産であります。そこで、国民の皆さん一人一人に、道路の役割をより一層理解して頂くことによって、道路を常に広く、美しく、安全に維持し、あなたの子孫に受け継いでいくことを目的として、上記を募集テーマとしています。
応募方法 (一人何作品でも応募できます)	〈はがきによる応募の場合〉 応募はがき〈50円切手の貼り付け必要〉または官製はがき1枚に、標語1点と氏名・住所・電話番号・性別・年齢・職業を記入のうえ郵送してください。 送付先：〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目6番19号 KY溜池ビル3階 道路広報センター 平成19年度「道路ふれあい月間」推進標語募集係 行 〈パソコン、携帯電話のインターネットによる応募の場合〉 https://ssl.jolls.co.jp/hyogo/index.html
応募期間	平成19年3月31日(土)まで(当日必着)
審査員 (予定)	浅井慎平(写真家)、残間里江子(プロデューサー)、 陣内貴美子(元オリンピックバドミントン選手)、 山田美保子(放送作家、コラムニスト)(五十音順・敬称略)
発表方法	入賞者には、直接通知するとともに、機関誌等に掲載します。
使用方法	入賞作品は、ポスター・チラシ等により「道路ふれあい月間」の推進に幅広く活用します。
応募部門	学生の部(小学生から高校生まで)、一般の部(左記以外)
賞	最優秀賞1点、優秀賞4点(学生2点、一般2点)、 優良賞(学生2点、一般2点)
表彰	賞状、楯及び副賞を贈呈します。 最優秀賞…①DVD・HDDレコーダー②液晶テレビ (※①②のいずれかを選択) 優秀賞…①ETC車載器②デジタルカメラ (※①②のいずれかを選択) 優良賞…携帯音楽プレーヤー
問い合わせ先	国土交通省道路局道路交通管理課 03-5253-8111 (内線37424)

平成18年度推進標語

最優秀賞 「ただいまと 今日笑顔で 帰る道」

の検討を実施することとしています。

(3)さらなるITSサービスへの

取組み

多様なニーズに対応するサービス展開や新規産業の創出等を図るため、駐車場ゲートの通過や車両のフェリー乗船手続き等における民間事業者によるETCの応用利用の支援等を行うこととしています。

3. スマートIC、ETCの利用促進関連

(1)スマートIC(ETC専用IC)

の整備促進

高速道路の利便性を向上し、地域生活の充実、地域の活性化を図るため、地域との調整を図りつつ、社会実験を実施するとともに、整備効果が高い箇所について本格導入を図るなど、引き続き整備を促進することとしています。

(2)ETC利用促進に向けた支援

利用者の利便性・快適性の向上や料金所周辺環境改善、多様で弾力的な料金施策の実施のため、全国ネットワークに接続する地方道路公社の有料道路におけるETC整備への貸付制度(新規)やETC車載器リース制度等により、ETCへの利用転換の促進に向けた支援を実施することとしています。

(ITS統括研究部調査役、西部陽右)

編集後記

第13回ITS世界会議が、昨年10月8日から14日にかけて、英国ロンドンで開催されましたが、今号では同会議の内容や、欧州における関連する動向を中心に、編集しました。

まず「MAIN ARTICLE(1)」として、当機構の西部調査役の執筆による、同世界会議の内容のご報告を掲載しました。続いて、(2)として堀内調査役による「ノルウェーにおける道路課金の実態調査報告」を掲載しました。

巻頭インタビューには、通信ビジネスのお立場からITSに関連する研究開発をリードされてい

る、中村博行氏にご登場いただきました。

そしてREPORT欄には「自動2輪車ETCの本格運用について」、「第22回道路新産業開発機構海外調査報告」など4本の論文を掲載し、INFORMATION欄には、新年度における国土交通省のITS関連予算についてなどを掲載しました。

なお、前号(84号)の目次欄で、特集タイトルを「日本橋地域再生事業の展望」と表記いたしましたが、これは「日本橋地域再生事業の展望」の誤りでした。申し訳ございませんでした。深くお詫びいたします。(1)

TRAFFIC & BUSINESS

季刊・道路新産業

WINTER 2007 No.85 (平成19年2月28日)

発行 財団法人 道路新産業開発機構
〒104-0045 東京都中央区築地7丁目17番1号
住友不動産築地ビル2階
TEL 03-3545-6633 (代表)
FAX 03-3545-6660
ホームページ <http://www.hido.or.jp/>
編集発行人 伊藤清志
編集協力 株式会社リーブル
印刷 有限会社セキグチ

★本誌掲載記事の無断複製をお断わりします。